

# 中芸高だより

平成28年度  
第5号



## 平成二十八年中芸高校卒業式

ようやく訪れた春の兆しも、いったん押し戻されたかのように冷え込む三月一日（水）、二十八年度の卒業式が挙行政され、昼間部21名、夜間部2名の計23名が、中芸高校を巣立っていきました。

式ではまず、ホーム担任から名前を呼ばれた一人ひとりが、高校生活への万感の思いを込めた丁寧な所作で登壇し、卒業証書を受け取りました。続く式辞の中で学校長は「人生には必ず辛いとき苦しいときがある。その時こそ自分の根が伸びる時。人にも木にも伸びる時がある。その苦労があつてこそ、強い風の中でも立っていられる人間になれる。人に頼られる、強くて優しい人間になれる。苦境に陥った時や心が苦しくなった時が、最も大切な時間。しっかりと自分の根っこを伸ばして欲しい」とのメッセージと、荒井由美さんの名曲「卒業写真」に描かれる「卒業写真のあの人の」のエピソードに触れながら「これからも本当に皆さんのことを見て、心から心配してくれる人に出会って欲しい、そしてその出会いを大切にしたい。」と最後の言葉を送りました。

その後、在校生を代表して黒岩さんが、卒業生との様々な思い出を振り返り、感謝と伝統を引き継いでいく決意を伝え「中芸高校でめぐりあった、友人たちとの絆を生涯の宝とし、信念をもって未来を切り拓いていってください。」と送辞。これに答えて昼間部は藤戸さん、夜間部は植田さんが、それぞれ答辞を述べました。藤戸さんは、自分達の学年から装いも新たに「よみがえる二十三士」とリニューアルした中芸よさこいや、文化祭、進路等での苦労、そして悩みと不安の連続だった学校生活を思い起こし、「数々の失敗や経験を重ね、周りの方々に支えられてきた三年間をしっかりと胸に刻み、自信を持ってこの中芸高校を旅立ちます。」と力強く結びました。

式典終了後は、生徒会主催の送る会。三年間を振り返るスライド上映が行われ、懐かしい表情の数々に、笑いあり涙ありのひと時となりました。恒例のくす玉から表れた言葉は「精神一到」。これから待ち受ける様々なことに、立ち向かっていって欲しいとの思いが込められました。温かな拍手に送られ、下級生たちが飾りつけた教室で最後のホームを行い、卒業生は丘の上の学び舎を後にしました。

最後になりましたが、御列席いただきました来賓の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、この日を待ち望まれていた、保護者の皆様、本当におめでとうございました。新しい未来に向かって力強く歩み始めた卒業生たちの今後の活躍に、心から声援を送りたいと思います。



### 田野町「わくわく案内板」制作参加

イラストアート部では、リニューアルされる田野駅の観光案内板に挿し込む町内の施設をかたどった木片の制作を行いました。観光案内板のリニューアルは、三月四日（土）に開幕した幕末維新博に向けての取り組みです。

二月十三日（月）～十五日（水）に、イラストアート部一、二年次生と引退した三年次生が、和気あいあいとした雰囲気の中、協力して制作に取り組みました。中芸高校やたのたの温泉、町章などを鮮やかに色塗りし、ポップでかわいらしいイラストを描くことができました。

二月二十四日（金）、観光案内板の完成お披露目会に参加するため、イラストアート部で田野駅に行きました。案内板の仕上げとして中芸高校、中芸消防本部、田野町役場の木片を部員が挿し込む役目を任せていただき、田野町役場の方、看板の制作者一田野まちづくり塾・衆」の方々などたくさんの方が見守ってくださいました。

イラストアート部での協働制作は今回がはじめてでしたが、一、二、三年次生が協力して制作する姿が見られて良かったです。



### 若者サポートステーション 出張講座

進路相談や、就職への支援、様々なスキルトレーニングや体験活動等で、若者支援に取り組みされている「高知黒潮若者サポートステーション（通称サポステ）」が企画する高校生向けのセミナーを、一年次生が受講しました。本校ではすでに二、三年次生がそれぞれの学年で必要なスキルを学ぶ機会として受講しており、また放課後の時間を利用して、全員が個別面談も行っています。

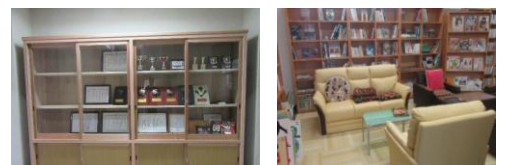
二月九日（木）「人と心のコンサルティング・トラスティ」代表の山脇文字子氏を講師にお迎えし、「働くことのイメージ 家計について考えてみよう」というテーマでお話を伺いました。働くことの意味を考え、一人暮らしにかかる費用をグループで想定する活動等を通して進路や卒業後の生活について考える良い機会となったようです。



### 図書館インテリナが2階フロアに飾り棚

▼生徒が集まる図書室入口のくつろぎスペースにソファを、窓際にパステルカラーのイスと白いテーブルを置き、雰囲気を一新しました。

▼二階東階段前には新たに飾り棚を新設し、一階玄関横に所狭しと置かれていたトロフィーや盾、表彰状を分けて置くことができるようになりました。



### 初めての共同制作

二月十七日（金）、一年次生が、田野分校の生徒さんに教えていただいたながら、陶芸体験を行いました。同じ校舎を使う分校の生徒さんとは、文化祭等の行事で関わることはありましたが、授業で同じ作業に取り組むのは初めてです。

生徒たちの感想を紹介します。「知らない人と活動するのは不安だったけど親切に教えてくれたので楽しく活動できた。一緒に作業をしたのは初めてでとても新鮮でした。」「先生（田野分校の生徒さん）が丁寧にとっても分かりやすく説明してくれたので、良かったです。また校舎内で会ったりしたら、あいさつなどをしたいです。」



### 龍馬マラソン参加

一万人の大会を超えるランナーが土佐路を駆け抜けた、第五回龍馬マラソン。本校からも昨年に引き続き、三年次生二名、教員二名がエントリーし、三名が完走しました。

二名の三年次生は、放課後や休日練習を重ね、大会当日の朝刊には「すごいっらいことばかりだけど最近走りながら景色を楽しめるようになってきました。二人でゴールすることと自分の限界を超えることが目標です。」とのコメントが、写真入で紹介されました。

二月十九日（日）、沿道の声援を受けながら挑戦した初マラソンは、二人にとってきつと大きな力になることでした。

